

資料1-3



EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

サステナビリティ実施計画 (概要版) (案)

2023年12月時点
公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

サステナビリティ実施計画 概要



- AIPH（国際園芸家協会）の規則等に基づき、「サステナビリティ戦略」を実現するためのアクションや実施スケジュール等を定めた「サステナビリティ実施計画」を2024年3月に策定予定。

記載項目	概要
1 はじめに	本園芸博における マイルストーンと成果物を設定 し、その達成に向けて、前提条件、制約条件、リスク、リスクの予防的措置等を記載。
2 ガバナンスとステークホルダーのマネジメント	本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーとして、「来場者」「市民・地域社会」「政府・自治体」等の 9つを設定し、ステークホルダー分析を実施 。
3 実施スケジュール	戦略で設定した、 5つの目的と12の目標を実現するためのアクションや実施スケジュール等を記載 し、取組を推進。
4 予算	本園芸博の予算は、 会場建設費 320億円、運営費 360億円 を見込む。
5 進捗管理と評価	戦略で設定した、5つの目的と12の目標のKPI（重要業績評価指標）について、基準値、2024年度～最終年度の 中間・最終目標値等を設定 。 KPIは毎年度、進捗管理を行い 、サステナビリティレポートに結果を記載。

- 本園芸博の開催における、計画策定、工事、事業などの中間目標を **マイルストーンと成果物として設定。**
- マイルストーンと成果物の達成において、 **前提条件や制約条件を設定。**
- マイナスの影響を与える可能性がある **リスクを検討し**、その影響を回避、抑制するために **予防的措置を実施。**

主な記載項目	概要
マイルストーンと成果物	本園芸博の開催における中間目標の時期と成果物
前提条件	マイルストーンと成果物の達成において、前提となる条件
制約条件	マイルストーンと成果物の達成において、制約となる条件
リスク	マイルストーンと成果物に対して、 マイナスの影響を与える可能性があるリスク
リスクの予防的措置	リスクについて、その影響を回避、抑制するための予防的措置

ガバナンスとステークホルダーのマネジメント

- 本園芸博の成功に重要な役割を果たすステークホルダーとして、「来場者」「出展者等」「ボランティア」「市民・地域社会」「NPO・NGO」「事業者」「有識者等」「政府・自治体」「協会職員・運営スタッフ等」の9つを設定し、**ステークホルダー分析を実施。**
- **今後も各ステークホルダーと適切なコミュニケーションを図る。**



- サステナビリティ戦略で設定した、**5つの目的と12の目標を実現するためのアクションや実施スケジュール等を記載し、取組を推進。**

5つの目的
1 気候変動対策
2 生物多様性の保全
3 サステナブルな調達と資源管理
4 公平性と包摂性
5 サステナビリティ教育と意識向上

12の目標	
1 生物多様性	7 建設
2 水環境	8 デザイン・計画
3 脱炭素	9 交通・会場内移動
4 エネルギー	10 海外からの参加者 (外国政府・国際機関等)
5 公害対策	11 サステナブルなイベント運営
6 廃棄物と解体	12 レガシー

予算、進捗管理と評価

- 本園芸博の予算は、**会場建設費 320億円、運営費 360億円**を見込む。
- サステナビリティ戦略で設定した、5つの目的と12の目標のKPIを進捗管理するため、**各KPIの基準値**、2024年度（1年度目）、2025年度（2年度目）、2026年度（3年度目）の**中間目標値**、**最終目標値**等を設定。
- **KPIは、原則として毎年度、進捗管理を行い**、サステナビリティレポートに結果を記載。



※KPIにより、最終目標値の設定年度は異なる。